

**令和 6 年度 第 1 回生野区区政会議
まちの未来部会**

1 開催日時

令和 6 年 6 月 24 日（月） 19 時 00 分～

2 開催場所

生野区役所 6 階 大会議室

3 出席者

（区政会議委員） 7 名

中村（寛）委員、須郷委員、倉本委員、島本委員、廣川委員、塚本委員、山納委員

（生野区役所） 10 名

筋原生野区長、小原副区長、大川企画総務課長、木村地域まちづくり課長、川楠まちづくり推進担当課長、森区政推進担当課長、武田企画総務課長代理

4 委員に意見を求めた事項

（1）令和 5 年度生野区の取組み振り返りについて

- ・資料 1 令和 5 年度生野区運営方針振り返り（全体会・各部共通）
- ・参考資料 1 当日スライド資料
- ・参考資料 2 事前にいただいたご質問等と区の考え方、対応
- ・参考資料 3 主なご意見等と区の考え方、対応

（令和 5 年度第 2 回生野区区政会議 全体会）

（2）（仮称）区政に関する意見交換会の開催について

（3）その他

5 会議内容

○森区政推進担当課長

皆さま、大変お待たせをいたしました。定刻になりましたので、ただいまから令和 6 年度第 1 回生野区区政会議まちの未来部会を開催させていただきます。本日はご多用のところ、当会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は、事務局の生野区役所企画総務課の森と申します。よろしくお願いいたします。

それではまず、本日ご出席の委員の皆さまをご紹介します。委員

名簿の順でお名前をお呼びいたしますので、お名前を呼ばれました際には、お手数ではございますけれども、ご起立いただきますようお願いいたします。中村委員でございます。

○中村（寛）委員

中村です。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

須郷委員でございます。

○須郷委員

須郷です。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

倉本委員でございます。

○倉本委員

倉本です。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

島本委員でございます。

○島本委員

島本です。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

廣川委員でございます。

○廣川委員

廣川です。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

塚本委員でございます。

○塚本委員

塚本です。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

山納委員でございます。

○山納委員

山納です。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

なお、栗津委員につきましては、所用によりご欠席でございます。また、平島委員につきましてもご欠席のようでございます。

それでは、本日の会議では、委員定数9名に対しまして現在7名のご出席がございますので、定数の2分の1以上の出席で、有効に成立していることをご報告させていただきます。そして、本日の傍聴者は1名となっております。併せてご報告させていただきます。

区政会議に関します本市の規則によりまして、本日出席された委員の方のお名前、発言内容などが公開されます。事務局におきまして会議録を作成いたしまして、後日、区のホームページなどで公開させていただくほか、会議の様子を収録いたしまして、後日、YouTubeにおいて配信し、どなたでも閲覧できるような形にしていまいりますので、録音や撮影につきましてご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、まちの未来部会では、主にまちの魅力や地域活性化の分野について、令和5年度の生野区の取組を振り返りまして、次年度の取組につなげていきますため、委員の皆さまにご意見やご議論をいただきたいと考えております。本日の会議でいただきましたご意見などは、後日開催されます全体会の場で報告いただきまして、全ての委員の皆さまに共有いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、本日の資料についてご説明させていただきます。令和6年度第1回生野区区政会議まちの未来部会次第をご覧ください。こちらに、本日の会議資料を記載しております。まず資料1といたしまして、事前に送付しております、令和5年度生野区運営方針振り返り（全体会・各部会共通）というA4の資料がございます。次に参考資料1といたしまして、後ほどスクリーンに投影いたしますスライドを印刷いたしましたA4の資料でございます。続きまして、参考資料2といたしまして、事前にいただいたご質問と区の考え方、対応というA4の資料がございます。次に参考資料3といたしまして、前回、1月に開催いたしました全体会でいただいた主なご意見等と区の考え方、対応というA4の資料がございます。資料のほうに過不足はございませんでしょうか。ありがとうございます。

それでは、これからの議事進行につきましては、廣川部会長にお願いしたいと思います。廣川部会長様、よろしくお願いいたします。

○廣川委員

部会長の廣川です。ただいまから、令和6年度第1回まちの未来部会を開催します。区政会議は、地域でまちづくり活動を実際に進めている私たちが、行政とともに生野区の課題解決のためにどう取り組むべきかを建設的に考える、そういう趣旨の会議となっております。よって、委員の皆さまの個人の感想ではなく、生野区全体を主体的に運営する見方に立って、積極的なご発言をお願いできればと思います。

それでは開催にあたりまして、筋原区長からご挨拶よろしくお願い申し上げます。

○筋原区長

生野区長の筋原です。本日はお仕事やご家庭のご用事でお忙しい中、生野区区政会議まちの未来部会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。区政会議とは、条例に基づき開催するもので、区における施策・事業につきまして

区民の皆さま方から意見・評価をいただき、立案の段階から意見を把握して適時これを反映させるとともに、その実績と成果の評価に係る意見をお聞きするということを目的としております。中でも、まちの未来部会のテーマはまちの魅力や地域活性化等の分野でして、生野区に來たい、住みたい、住み続けたいと思っていただけるような、魅力あるまちづくりをめざした取組となっております。本日は、令和5年度の取組の振り返りについてご説明させていただきますので、ぜひ忌憚のないご意見をいただきまして、よりよい区政につなげていきたいと思っておりますので、本日どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

○廣川委員

ありがとうございます。それでは早速議事に入りたいと思いますが、限られた時間の中で円滑に意見交換を進めていただけるように、ここからは学識委員の山納委員に会議の進行をお願いしたいと思います。それでは、山納委員、よろしくお願いします。

○山納委員

山納です。よろしくお願いいたします。今日の会議は、資料が令和5年度の生野区の取組の振り返りということで配られております。まずこの説明から、区役所のほうからお願いしたいと思います。

○武田企画総務課長代理

企画総務課の武田と申します。よろしくお願いします。それでは、令和5年度の生野区の取組についてご説明いたします。着座にて失礼します。前方のスクリーンか、お手元の参考資料1をご覧ください。

はじめに、生野区運営方針とは何かということについて簡単にご説明いたします。生野区運営方針とは、区における施策の選択と集中の全体像を示す方針として毎年度策定するものであり、生野区将来ビジョンに向けた毎年度のアクションプラン（毎年度の施策・事業の取組を明らかにするもの）です。下の図をご覧くださいと、イメージしやすいかと思います。生野区のめざす将来像や施策展開の方向性などを示したものが生野区将来ビジョンであり、それに向け、毎年度のアクションプランとして策定するのが生野区運営方針となります。

施策を進めるにあたっては、行政として限られた資源（予算、人員、時間等）を使って最大限の効果を上げるため、PDCAサイクルの考え方のもとで、毎年度策定される区の運営方針等により取り組んでいます。

次に、生野区運営方針の策定・評価スケジュールについてご説明いたします。こちらの図は、令和6年度から令和7年度はじめにかけてのスケジュールをお示ししたものととなります。区政会議は年2回、上半期1回、下半期1回開催しますが、今回の第1回区政会議では、前年度の取組であります令和5年度生野区運営方針の振り返りを行いまして、今後の生野区の取組に向けて、委員の皆さまか

らご意見をいただくことになります。

それでは、まちの未来部会について、令和5年度の取組についてご説明いたします。詳しい取組内容につきましては、事前に送付いたしました資料1にありますが、それらの中からピックアップしてご紹介いたします。まちの未来部会で取り扱うテーマは、まちの魅力、地域活性化等の分野となります。

リノベーションまちづくりについての現状課題です。万博を契機としたまちの活性化、ものづくり産業の振興、学校跡地活用、空き家等の利活用、移動手段の確保について取組を進めていく必要があります。

まず、万博を契機としたまちの活性化に関する具体的な取組についてご説明いたします。生野区では、万博の機運醸成を図るため、令和5年度から「EXPO いくのヒートアッププロジェクト」プロモーション事業を委託事業として実施しています。当事業の昨年度の内容についてご説明させていただきます。「EXPO いくのヒートアッププロジェクト」とは、「万博から人を呼び込もう」を合図に、万博に向けて地域の熱量を上げていこうとする様々な取組全てを指します。このプロジェクトの狙いとしては主に3つありまして、万博の機運盛り上げ、区の魅力発信、にぎわい創出となっています。「EXPO いくのヒートアッププロジェクト」には、区役所での取組と委託事業による取組がございます。区役所での取組としましては、各種イベントにおける万博PR、万博ブース設置、24区一斉に取り組む24区万博への参加などを行っています。次に、委託事業であります「EXPO いくのヒートアッププロジェクト」プロモーション事業の取組についてご説明いたします。「EXPO いくのヒートアッププロジェクト」プロモーション事業は、令和5年度、6年度、7年度に、3か年をかけて取り組んでいくものとなっています。生野区では、万博開催年の2025年に、生野区独自の万博「EXPO いくの」開催を予定しており、公民連携によりイベントを企画・実施していきたいと考えています。その準備としまして、令和5年度には、当事業の趣旨に賛同してくださる方々のネットワークづくりと、万博とまちの魅力を発信するための情報発信サイト「IKUNO TO GO」を開設しました。ネットワークづくりとしましては、万博やまちを盛り上げたい人たちに集まっていただき、「EXPO いくのミーティング」を3回実施しました。また、イベントを通じたネットワークづくりとして、令和5年11月30日が万博開催500日前でしたので、その前の11月25日に万博500日前イベントをいくのパークで開催しました。会場となったいくのパークの見学会を行ったほか、紙芝居師による万博の機運盛り上げや、近畿経済産業局の方をゲストに迎えてトークセッションを行っています。さらに同日夜には、関連イベントとしまして、いくのパーク屋上において「EXPO 酒場 生野店」が開催されました。EXPO 酒場は全国各地で行っているイベントであり、万博関係者と区民の方々が交流し一緒に盛り上がっています。ネットワークづくりのため

のイベントとしまして、ものづくりをテーマとした「fab 博覧会 in いくの」を開催しました。区内 6 社の製造業からご協力いただきまして、オープンファクトリーを実施し、109 名と多くの方に参加いただくなど大変好評でした。多文化共生をテーマとしたイベントでは「多国籍カレー（スパイス）フェス」を開催しました。スペイン、韓国料理屋さん、ネパール料理屋さん、台湾料理屋さんにご協力いただきまして、料理の提供のほか、その国の文化についてお話ししていただきました。食をテーマとしたイベントでは「あきない博覧会～食発セッション～ in 桃谷商店街」を開催しました。桃谷商店街の飲食店 5 店舗からご協力いただきまして、それぞれが万博メニューを開発し、持ち寄って交流を深めていただきました。教育・子どもをテーマとしたイベント「スーベニアソン」では、お菓子の製造メーカー 4 社を 2 コースに分かれて工場見学に行った後、子どもたちに万博にちなんだ夢のお菓子のアイデアを出し合ってもらいました。参加企業さんからはお菓子の詰め合わせプレゼントもあり、子どもたちはとても喜んでいました。参加企業さんにとっても、子どもたちとのふれあいや、子どもならではの豊かな発想にいい刺激を受けたとのお声をいただいています。

こちらは情報発信サイト「IKUNO TO GO」での特集記事であります。Instagram の「IKUNO TO GO」では、開催したイベントの写真や動画を掲載しています。情報発信としまして「EXPO いくのヒートアッププロジェクト」に関しては区役所のホームページで、「EXPO いくのヒートアッププロジェクト」プロモーション事業については「IKUNO TO GO」で随時発信しています。ぜひ一度、ご覧いただければと思います。万博を契機としたまちの活性化や取組については、以上となります。

続いて、ものづくり産業の振興に関する具体的な取組についてです。生野区では、区内産業の連携やクリエイター等とのマッチングを行うことで、生野区のものづくりの魅力の向上、地域活性をめざすことを目的として、生野ものづくりタウン事業を実施しました。

続いて、学校跡地活用、空き家等の利活用、移動手段の確保に関する具体的な取組についてです。オンデマンドバス、シェアサイクル、いくのアカツカウンターなどを掲載させていただいております。

リノベーションまちづくりのアウトカム指標と令和 5 年度の指標達成状況ですが、区民へのアンケートで「生野区のまちに地域の賑わいや活気が出てきた」と回答した割合、令和 8 年末までに 60% 以上に対しまして、令和 5 年度は 51.1% となっています。

生野区シティプロモーションについての現状課題です。発掘・浸透されていないまちの魅力発信や、生野区に来たい、住みたい、住み続けたいと思うような情報発信について、まだまだ十分ではないということが挙げられます。

区役所からの主な情報発信のご紹介です。情報発信としまして、広報いくの、X（旧ツイッター）、やさしいにほんご Facebook、大阪市公式 LINE、いくみんな LINE スタンプの販売などを行っています。こちらは公民連携による情報発信サイトのご紹介です。生野区まちの情報サイト「いくのぐらし」を運営しています。一般社団法人いくのもりと連携を強化しまして、生野区の魅力について情報発信を行っています。なお、一般社団法人いくのもりは、「EXP0 いくのヒートアッププロジェクト」プロモーション事業の令和 6 年度の受託事業者でもありまして、「IKUNO TO GO」の運営も行っております。

生野区シティプロモーションのアウトカム指標と令和 5 年度の指標達成状況です。区民へのアンケートで「生野区のまちに愛着を感じ、これからも住み続けたい」と回答した割合、令和 8 年度末までに 60%以上に対しまして、令和 5 年度は 79.5%となっています。若年層の転出（転入）が前年より減少（増加）する状態（毎年 4 月 1 日現在推定人口 10 代～30 代で比較）について、令和 5 年 4 月 1 日現在、40,256 人に対し、令和 6 年 4 月 1 日現在は 41,119 人となっています。

まちの魅力・地域活性化等の分野の令和 6 年度の実行ポイントです。万博を契機として、まちの熱量を上げて地域活性や魅力発信につなげていくとともに、データやデジタル技術を活用したサービスの提供等、スマートシティに向けた取組を推進していきます。

最後に、まちづくり協議会による自律的な地域運営の促進についてです。現状・課題ですが、地域の実情に即した最適な支援を行う必要があり、まちづくり協議会の意義や求められる機能について、理解を促進するための働きかけや情報発信を行う必要があります。アウトカム指標と令和 5 年の指標の達成状況ですが、地域活動協議会（まちづくり協議会）の構成団体が地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う割合、令和 5 年度末までに 90%以上に対し、令和 5 年度では 86.4%となっています。令和 5 年度の実行の説明は以上となります。

次に、事前にいただいた質問に対する区の考え方、対応についてということで、参考資料 2 をご覧ください。参考資料 2 と書かれた A4 の横長の資料でございます。こちらのほうで事前に質問をいただいてまして、こちらの部会に関わる部分だけ説明させていただきます。

島本委員からご質問いただいていました、「区政運営の基本的な考え方について」の区の考え方、対応ですけれども、「多文化共生」では「壁を取り払って一緒にやりましょう」と言う事がありますが、壁を取り払うと強いほうが弱いほうを飲み込む「併合」になり共生できないことがあります。「異和共生」は、あえてお互いの壁は立てたままで、でも壁の外に一步步踏み出して壁と壁の隙間で一

緒にできることを少しずつ広げていこうという、関西沖縄文庫主宰の金城馨さんが提唱されている考え方です。生野区では、この「異和共生」を基本理念としましてまちづくりや区政運営を進めておりますので、当区における「多文化共生」とは、「異和共生」の考え方に基づき、壁は残したままで違いを認め合い、対等な関係で生きていく事をあらわしています。4 ページで、こちら島本委員から、「大阪市版ネウボラ」についてご質問をいただいておりますが、こちらはこどもの未来部会のテーマになりますので、後ほどご確認をお願いします。

次に、本日の意見交換会について説明させていただきます。参考資料1の最終ページか、スライドのほうをご覧ください。昨年、区政会議委員に区政会議に関するアンケートを実施しましたところ、区が特に話し合いたい事項を取り上げて意見交換する機会があればいい、またテーマを絞って意見交換を行ってほしいといったご意見を多くいただきましたので、令和6年度からテーマを設定し意見交換を行いたいと思っています。本日、特にご意見やアイデアをいただきたいことは、来年に控えている大阪・関西万博開催に向けて、生野区でも様々な取組を行っていますが、大阪・関西万博の開催後、生野区のまちづくりにどうつなげられるかについて、アイデアをいただきたいと思っています。事務局からの説明は以上となります。よろしくお願いします。

○山納委員

区役所からご説明がありましたが、まず何か質問やご意見はありますでしょうか。ここまでは大丈夫ですか。それでは意見交換を進めていこうと思います。ここは区政会議です。特にまちの未来部会ということで、まちの未来に関わる話をこれからしていこうということでございます。事務局から今、意見交換の主なテーマが掲げられました。大阪・関西万博の開催を生野区のまちづくりにどうつなげるのかということが書かれています。その前段の説明で、区政というのが多岐にわたるいろんな分野を扱っている中で、テーマを絞ったほうがよいのではないかという意見が区政委員からも出たという説明があったかと思います。この場ですので、実際どうなのという話からしていけたらと思います。このテーマでしゃべっていただいてもいいですし、区政会議に来てしゃべる立場であるので、区政に反映させる意見をここで伝えたい、もっと話したいことがあるのであれば、その話をしていただいてもいいのかなと思っています。

先ほど資料の説明をしていただきました。この参考資料1ですけれども、簡単に振り返ってみましょうか。区政方針というものが書いてあって、特にまちの未来部会部分の抜粋ということで、にぎわいとiroどり豊かな魅力のあるまちということが書かれています。いくつかのテーマが掲げられました。リノベーションまちづくりということで、ものづくりのまち生野ということのを何とかしていこうですとか、学校跡地の活用、空き家の利活用、安定的な移動手段の確保とい

う話が掲げられていて、次のページからは、万博を契機としたまちの活性化と資料にあります。特に「EXPO いくのヒートアッププロジェクト」プロモーション事業という事業が行われていたと書かれています。僕は生野区に住んでいないので、何か月かぶりに生野に来たら随分いろんなことをやってるなというのが正直な感想でございます。

プロモーション事業は、受託事業者として株式会社友安製作所と書かれています。区の仕事なんですが、民間事業者としてこれを受けて進める立場の方がおられたということが分かります。そして、13 ページ以降ですけれども、「EXPO いくのミーティング」というミーティングが行われていた。ネットワークづくりのイベントが、いくのパークで 11 月 25 日に行われた。「EXPO 酒場 生野店」というイベントが、同じくいくのパークで行われていた。ネットワークづくりのイベントが 3 月に行われていた。「多国籍カレー（スパイス）フェス」とか、食に関する「あきない博覧会」が行われていた。「スーベニアソン」などなど。さらに、情報発信サイト「IKUNO TO GO」というのが立ち上がっていて、情報発信をしていると説明いただいています。つまり、いろんなことが進んでいるということですね。しかもこれは、2025 大阪・関西万博を見据えていろんなことが進んでいるということのご報告いただいたのだと思います。

23 ページにいきますと、ものづくり産業の振興ということで、友安製作所さんが受託事業者として、ものづくりタウン事業というのが進んでいると説明をいただきました。また、リノベーションまちづくりの取組も進んでいるですとか、シティプロモーションということも進めていますということでございました。

特にこの万博ということですので、まず万博の話から入ろうかと思います。万博が 2025 年に行われます。ご存知のとおり、万博のメイン会場というのが夢洲ですから、海の人工島の上で行われる。生野区からはちょっと距離があると思います。でも、全世界から多くの人たちが大阪をめがけてやって来る。ということは、生野にもやってきてくれるかもしれない。ですからこのタイミングで、生野区にも来てもらえるようなイベントを打とうとか、ホスピタリティを醸成しようとか、情報発信をしようというようなことが、「EXPO いくのヒートアッププロジェクト」としてあるのかもしれませんが。外国の人、または大阪以外の人に、生野に来てもらおうというような機運を醸成するということかもしれません。逆に、生野に住んでいる方々からすると、それでいろんな、外国の人が来るかどうかはさておき、我々自身の区政を見直すとか、自分たちの住んでいるまちをもっと盛り上げていこうという機会になるのではないかということも、そこにはあるのかもしれませんが。そんなことをこの大阪・関西万博の開催を生野区のまちづくりにどうつなげるのかというところで考えてみてはと思っています。

繰り返しになりますが、このテーマでお話いただいてもいいですし、できたら

お話いただきたいのですが、これ以外に、今日は絶対これをしゃべって帰らんと済まんと思うことがあれば、ぜひしゃべっていただきたいと思っております。ということで、どなたからいきましょうか。須郷さん、いかがですか。

○須郷委員

こんばんは。何となくなんですけど、いろいろな取組を生野としてもしているのですが、万博の流れがちょっと弱いのかなと。盛り上がり弱いかもしれません。府や国のやり方の問題もあるのかもしれませんが、ようやくここに来て、やっと近づいてきたから、少しは大阪も盛り上がりとういう機運は出てきていると思うのですが、スタートが鈍かったのかなという気がしているので、これから何とか生野区として、皆さんで盛り上げていけたらいいんじゃないかと思います。具体的にこうしたらという意見は、すみませんが特にありません。申し訳ありません。皆さんの意見を聞きながら、お話ししていきたいと思います。

○山納委員

もう1回くらい回ってくると思うので、よろしくお願いします。では、倉本委員、お願いします。

○倉本委員

小路地域の倉本でございます。よろしくお願いいたします。いただいたテーマなんですけれども、あまり具体的にイメージがつかないというのが今の感想でございますけれども、とにかく人が来るのかなというポジティブな意見と、いろんな人が来るからこそ地域に住まわれている方とかはどう思うのかなというネガティブな意見と、両方が混在しているんですけれども、ただ人がたくさん来てくださるというのは、生野を知っていただけるいいチャンスになるので、このタイミングに合わせて何かができたらいいのかなということと、若い方々に生野区を知っていただけたら、なおいいのかなとちょっと思ってみたりしております。

いただいた資料の中では、10代～30代の人口が少し増えているということが数値的に記載されていまして、いい傾向なんだなということを感じていますので、このまま子育て世代が増えたら嬉しいなと感じています。私も、高校生の娘がいる父親の1人でもありますので、子どもたちが生野から出ず、そのまま大人になって末永く働いて、また家族を作っていってくればいいまちになったのかなと、ちょっと逆説的ですけども感じていますので、そういった若い方たちがずっとこのまちで住み続けたいと思っていただけるような、何か橋渡しができる1年間であればいいのかなと感じている次第でございます。とりとめのない感じですけども、今思っていることは以上です。

○山納委員

伺ってみてもいいでしょうか。若い人に知ってもらい、若い人が生野に暮らし

てほしい、子育てなんかをしてほしいということだと思いますが、難しいと思うんですが、万博の盛り上がりということを、どのように生野区に住む人を増やすということにつなげていけるかイメージを持てますか。

○倉本委員

あんまり持てないです。今は持てないですね。万博に来る目的はそれではありませんので。ただ、こんなまちもあるんだなというのを感じていただけるといいのかなと思ってみたりしているのと、ものづくりと食文化もまだ強い地域だと思っていますので、そういった地域に興味がある方が増えてくれたら嬉しいぐらいです。

○山納委員

ありがとうございます。では、島本委員お願いします。

○島本委員

島本です。よろしくお願いします。万博のテーマは大きいと思うんですけど、命輝くテーマとか、そのへんをものづくり生野区としてどんなふうに関わっていくのかなと。今はすごく空き家が多くて、民泊にどんどん広がっているんですけども、そのへんで万博に来たお客さんなんかも呼び込めるのかなとか、まだまだ疑問に思う点が多いです。

先ほど、異和共生と多文化共生について答えていただきまして、今新聞でも生野区の多文化共生をずっとシリーズで取り上げていただいているんですけど、やっぱり異和共生という先ほどの答えのところへんが地盤になっていて、それが積み重なって広がっていったのかなということが理解できましたので、ありがとうございます。

○山納委員

1つ伺ってもいいでしょうか。先ほど民泊の話があったのですが、感覚として生野区で民泊って増えているんですか。

○島本委員

感覚としてです。まだ、一時的にはマナーがなかなか、日本の文化とやっぱり外国の文化が違うので、ごみの出し方とかそういうところで問題があったように聞いていたのですが、割とうちの町会のほうはそのへんは浸透してきていて、トラブルなんかは今のところあまり聞かれなくなったので、それがやっぱり生野区全体に広がって活性化につながったらいいかなと。

○山納委員

外国の人が空き家に住んだり、民泊をやったりということが身の周りで起きているんですか。

○島本委員

はい、身の周りで。

○山納委員

特に大きな問題にはなっていないということですね。ありがとうございます。では、塚本委員、お願いします。

○塚本委員

この「ヒートアッププロジェクト」の実行委員をしております、廣川さんもそうなんですけれども、それこそ「あきない博覧会」の写真の真ん中のほうにも写っていてちょっとあれなんですけれども、生野区って60か国の外国籍の方が住まれているまちということで、万博って万国じゃないですか。海外からおみえになるかどうかはまだちょっと分からないんですけれども、生野区自体にたくさんの外国籍の方が住まれているということで、その魅力発信であるとか、あと、万博は来年で終わりますけれども、それが終わった後、生野区としてどういうふうにこのイベントがコミュニティにつながっていくのか。そういうこともちょっと考えてまして、まずはそのネットワークを作って、去年は友安製作所さんで、今年はいくのもりさんという生野区の事業者が「いくのヒートアッププロジェクト」ということを引き継いでいただいて、今、生野区中でイベントをたくさん行っていて、配付していただいた「いくの空き地 de つながる屋台市」のチラシ。こういう万博とは直接違うんですけれども、派生イベントとしてたくさんのイベントが出てきまして、生野区の熱量がどんどん盛り上がっているような実感を持っている次第です。

繰り返しになりますけれども、大事なのは万博が終わっても生野区の活性化につながるということで、イベントというか、ヒートアッププロジェクトを検討していこうと思っております。以上です。

○山納委員

ありがとうございます。では、廣川さんお願いします。

○廣川委員

こんにちは、廣川です。万博との兼ね合いとして捉えたときに、先ほどの島本委員がおっしゃった、宿泊施設であったりとか、交通の便とか、海外の人たちの宿泊の中心になっているのが難波だったりなのかな。大阪の中心のところに泊まりに来ているのが今の実際のところで、生野区にどれだけ宿泊施設があるかは分からないんですが、現状を見て、どうやって作戦・戦略を立てていくのかというのはやってもいいのかなと。万博に向けて何かを行うんだったら、生野を知ってもらふ冊子だったり既存の宿泊施設に置いてもらうことも1つの方法かと思いますし、2025年に向けてどう種をまくかが重要になってくるのではないかと思います。生野区で全てをできるわけではない中で、どこを中心にブランディングしていくかということが結構重要なポイントかなと思っています。ものづくりとか、お金が潤沢にあるわけではないので、ない中でどこに絞るのか

という要素が出てくるのかな。そうなった中で、マーケティングの要素がすごく重要なのかなと思います。

万博自体がちょっと盛り上がっていないのは、どこの区も一緒かと思っています。自分事じゃない中で、これだけ生野区のまち、地域の活気が出てきたとか、このまちが好きだという人たちがおるとい、住み続けたいとかというのがパーセンテージだけ見たらあるので、万博を生野区事に落とし込んでみんなで一致団結できたらいいなかなと思いますし、この指標はどういう指標なのかというのがすごく気になる。パーセンテージとかが出てて、対比の中のパーセンテージかもしれないですけど、人数やデータをどういうふうに出したのかというのが重要なかな。そこらへんも見てみたいなと、この 29 ページを見たときに思いました。以上です。

○中村（寛）委員

田島から来ております、中村でございます。よろしくお願いいたします。万博に向けての取組ということだったんですけども、やっぱりそれだけじゃなくて、それ以降も生野を好きになってもらえて、生野が住み良いまちだなと思ってもらうのが大前提かと思っているんですけども、たまたま今年の春、大阪のほうに住みたいというご家族がいらっしゃって、「中村さんどっか生野区の近くでお家探してあげてくれませんか」って言われたので、ロシアに 8 年くらい住んでいた方で、子どもさんもまだ小学校 2 年生を上を 3 人おられるということで、ぜひそれなら生野に住んでほしいということで大分たくさん提案したんです。学校もどこがいいかというご相談で、生野に来てほしいなと思ったので、みんな落ち着いていて大丈夫ですよみたいなご紹介はしたんですけども、結局やっぱり生野っていうイメージがね。海外に住んではって、大阪には全然関係ないところから来られるご夫婦だったんですけども、イメージ的なものとか、「治安が悪いんでしょう？」とかいうのを一番最初に言われたら、いいえ、そんなことございませんって言ったんですけど、大阪に全然関係のない人なのにそういうイメージを持ってるっていうのがちょっと怖いな、どこから聞きはったんやろうと。何をもって治安が悪いっていうふうに思っているのかも後からちょろちょろは聞いたんですけど、昔からのイメージをあちこちから聞く中であまり良いイメージを持たれていない。結局は、JR 桃谷駅あたりから乗れたらいいから天王寺区にしましたという。最終的には学校や幼稚園のことなんかも含めて、総合的にご夫婦で相談された結果、天王寺区に住まわれることになって。近いのでお付き合いしてるんですけども、そんな方でもあまり良い印象を持っておられないっていうのがあって、イメージを変えていきたいなと思いました。私も 20 年ちょっと前に生野区に来たときにはこんな立派な区役所ではなく、ちょっと怖いおじちゃんが窓口に座ってはって、私ちょっと入っていくのが怖くて、引っ

越しの転入手続きすら結局主人にしてもらったっていう感じだったんです。今はこうやって区役所も立派になって係の方ともお話しできるようになったので、そういうイメージはないですし、子どもも公立の小学校、中学校でお世話になりましたし、学校のこととかもいろいろ聞く中で、そんなに生野区の学校だけが悪い子がいてるイメージももうない中で、外から見ていまだにそういうふうに見られてるんやなと思ったのは、ちょっと寂しいなと思いました。

テーマは、万博に絡めてということだったんですけれども、前回も区政会議のこの部会とかに出させてもらったときに、生野でその EXPO に絡めてなんかしていこうとしてはる、ヒートアップっていう言葉も初めて聞いた状態だったので、ちょっと置いていかれないようにと思いながら。「いくのの日」の取組は、始めたときからお手伝いさせてもらっているので、「いくのの日」としてもちょっと何か関わらせていただけたらいいなということで、チラシを最初に見せていただいたときのご説明のただの私の印象ですけど、人、モノ、金と用意するよっていう感じに受け取ってしまったんですけど、実際のところなかなかそうはいかない状態であるということをお聞きしましたので、どこまで盛り上げていくというところに関わっていこうかなというのは、今考え中です。

○山納委員

一巡いたしました。そうですね、いろいろいただきましたけれども、特に若い世代に知ってほしい、住んでほしいという話があったりしましたし、今の話でもイメージをより良くしていきたいというお話もありました。昔のイメージを引きずっていて、なかなか意識が変わっていつてくれないということがあったので、これを機会に情報発信から変えていくということもあるのかと思いました。

また、戦略っていう言葉が廣川委員からも出ましたが、現状においてどう戦略を立てるのかという話ですね。戦略って何なんだろうということをちょっと考えてみたいと思ったりします。

空き家があるということですね。空き家の民泊の話が出ましたが、それも戦略の一部だと思います。生野区の空き家をどんどん民泊にしたら、来年すごく宿泊客が取れるのかというのを現実的に考えたほうがいいですよ、戦略っていうんだったら。ということも多分考えられるのでしょうし、万博が終わっても生野の活性化にどうつながっていくのかということに落とすアクションがいるのだろうということが出たと思います。

ファシリテーターの本分を超えてちょっとしゃべるのですが、生野区で外国の人がすごく多い、60 か国という話があると同時に、最近どうなんでしょう、特にコロナの時は、鶴橋辺りのコリアタウンにどんどん新しいお店ができて、すごい人が来ているという印象を持っていました。それはあまり変わらず今でも人が来ているのでしょうかね。だから、生野区にわっと人が来るっていったら、

鶴橋に来るんだろうなと思ってイメージしています。それだけの力が、もうたぶんコリアタウンなり鶴橋の辺りにはあるのでしょうね。逆に古い商店街がどんどん置き換わっていつているというんでしょうか。当時は BTS でしたけど、今は違うのかな。要は K-POP アイドルをめがけてわーっとカフェにやってきて、ラテアートで推しのアーティストのラテで飲むみたいなことをやっています。すごい行列ができていうことが現に起きてますよね。何をこれ以上活性化と思っているのかという冷静な頭って1つ必要だと思います。トイレがないとかっていうことって問題になっていたりしませんでしたっけ。もう解決しているんですでしたっけ。ということは、どっと人が来るために何ができるのかという話と、どっと人が来たら受け入れられるのかということも考えていかなければいけないということを戦略的には思ったりもいたします。

もう1つ、桃谷商店街を歩いてここまで来るのが大好きなんですけど、どんどん外国人比率が上がっているのを感じます。今日も多分、帰りに「ももやん」っていう立ち飲み屋に寄るんですけど、「ももやん」面白いですね。「ももやん」なんて名前なのにネパールの人がやってるんですよ。ネパールの人がわーっといって、あそこで飲んでたら、ネパールの事をすごく教えてもらえる。だから、60 年か国の人たちが住んでいるというだけではなくて、自分たちがその気になれば外国文化に触れるっていうのも一足飛びにできてしまう、おもしろいまちだなと思います。そのことをいかにうまく使っていくのか。何だったら一緒にネパールの人も来るでしょう、ベトナムの人も来るでしょう、こっちに引っ張ってよ、みたいな盛り上がりを彼らと一緒に作るというのだって考えていいのではないかなと思います。余談を重ねて言いますが、八尾市の高美町というところがありますね。JR 八尾駅から 1 km くらい東に行ったところ。すごいベトナムの人が住んでいるエリアがあるんです。ベトナムのお料理屋さんとかベトナム食材店とかが点在しているエリアです。あそこは、80 年代にボートピープルとしてベトナム難民が渡ってきて、彼らを受け入れる雇用促進住宅というのがあったんです。そこに数家族が来たということから始まって、今、八尾市には 2,500 人のベトナム出身者がいます。空き家とかどんどんベトナムの人が住んでいるという状況が起こっている。すごく行くと楽しいのですが、外国の人がどんどん増えてくるときって、一歩間違えると分断が起きます。すごく極端な例をお話しますが、愛知県豊田市に保見団地という団地があるんです。豊田の下請けの工場働く日系ブラジル人中心にやってきて、それが 90 年くらいから後の話なんです。団地の人口の半分以上がベトナム人やブラジル人という団地があります。90 年代の終わりにすごい揉めました。右翼とブラジル人が揉めたみたいなことになって、街宣車が毎日やってきて、「ブラジル人帰れ」みたいなことをやっていたんです。どんどん人が増えていったときに、ある人数配分だったら、日

系人でよく働くというイメージがあったのですごく住民と仲良くしていたんですが、どんどん人が増え、自動車工場ではないところで働く人たちも増え、言葉はポルトガル語でしゃべるようになると、ごみを捨てる、習慣が違うとか夜騒ぐとかいうことがだんだん勘に触ってきて、揉め事が起きてくる。生野区にはそれがないだろうか。これからもっと生野に外国の人が増えたときに、分断が起きる可能性はないのだろうかということを心配します。分断が起きないようにやることって今すごいあるはずですよ。分断が1回起きてしまったら取り返せません。保見団地を見ていて感じます。ということをしてひっくるめて、2025年の万博を見据えて、何ができるのだろうかということを個人的には考えたいなと聞いていると思います。

もう1つ、住む人が増えるという話で、若い人がどうやったらそんな生野に人に住んでくれるのか。外国人推しってことで本当にいけるのか。もうちょっとブランド価値を高めるために、いい住宅とかいい環境を用意しなければいけないんだろうか、みたいなことも長期的に見たらあるのかもしれない。住宅、マンションがないとかもしれないし、いい教育環境がないとかもしれません。すぐに解決する問題ではないとは思いますが、そのことについてしっかりと、来てくれたらいいのになという以上のことをすることができないだろうかと聞いていると思います。ということで、時間があるのでもう一巡まわってくると思いますが、2回目は万博外してもいいと思います。ぜひ生野区の未来のために、2025年以降の生野のために何ができるのだろうかというご意見をもう一度聞かせていただけないでしょうか。同じ順番でいいですか。

○須郷委員

私はもと林寺小学校の跡にできたアブロードインターナショナルスクール大阪校で、地域連携アドバイザーをさせていただいています。以前、四ツ橋に学校があって昨年8月に引っ越してきたわけですが、徐々に新しく入学される方が生野区に住まわれたり、私たちがマンションとかを紹介しているせいもあるのですが、新しく先生が採用になって生野区に住むことになったりしている。私は最初、万博と言われると、具体的に万博に向けて取組をしていなかったのでもうちょっと言いにくかったのですが、それを取っ払うと、自分が今置かれている立場で生野に少しでも貢献できるような取組の成果と言えそうなのは、保護者や先生方とお話ししたりして、徐々に生野区に住まわれる方が出てきているというのがその1つです。

それから、この4月から林寺の第9町会の町会長をすることになりました。正直、引き受けたくなかったのですが、大人の事情で引き受けざるを得なくて引き受けた訳ですが、私が4月に会長になってから、新しいマンションや建て売りができたりしたので、引っ越された方にご挨拶に伺って、新しく会長になった須郷

ですということで、9町会の取組の説明とかいろいろさせていただいたら、7軒中7軒が入会してくださいました。また、入会されていないご家庭もあるので、これから時間をかけて伺って、少しずつでもご挨拶を兼ねて、忌憚のない意見交換ができればいいなと思っています。

それと今、林寺で新たな取組をしているのは、独居老人の方が結構おりまして、亡くなれるケースもあったりしています。前にちょっとお話をさせていただいたと思うのですが、脳梗塞で2回倒れていまして、すぐに病院に運ばれたおかげで今こうして生きられているんですね。だから、早く見つけて処置すれば生きる命も、気がついたら1週間も経っていたとかではもうアウトなので、そういうことにならないように、町会に入ってる入っていないに関係なく、個人情報の関係があつて難しいんですけど、何とか、隣に住んでいる人がどうも80歳を超えている人が1人で住んでは。いつも水撒きしているのに撒いてへんとか、日常で何かやりとりができて、何かがあつたとしても町会として取り組めるような体制ができたということで、今取り組み始めています。そうやってまずは足元から、ご近所づきあいっていうんですか、そういうのができるような環境になっていったらいいなと思っています。

○倉本委員

二巡目ということで、先ほどのお話し合いでもし教訓にできることがあるのであればなんですが、私は小路地域に住まわせていただいているので、コロナ前の民泊が結構多い地域だったんですけども、そこで課題にあったのが3つございまして、まずは騒音問題。民泊に泊まれる方々はお時間関係なく賑やかなんです。地域の方からのご不満の声は多かったです。コロナ前でしたので、中国系の方が非常に多かったので、深夜に大きなゴロゴロを引いてやってくる。大体終電までどこかで遊ばれているんでしょうね。そして、終電で大きなキャリケースを持って、そのまま民泊先の民家に行かれるので、地域の方々はやっぱりワイワイ、ガヤガヤ、ゴロゴロと泊まりに来られるのは少し苦痛だという声が聞こえてたのと、もう1つが、ずっと話題に出ているごみ出し問題。なので、小路地域はそういった方が多いので、ごみ出しの仕方は、日本語と、英語と、中国語と、韓国語と並んでるんですけども、もうキリがないと。いろんな多国籍の方がいらっしゃる。なので、ある程度今は治まりつつありますが、やっぱりごみ出しのルールを守っていただけない方が多かったので、おっしゃるとおり地域の方が片付けてるので、町会役員の皆さんが朝のごみの掃除から始まるというのもあるので、そういった何か、課題点を解決できる手段があればいいなということがありました。コロナ禍が明けて最近もまた少しずつ増えつつあるんですけども、誰が管理しているのかが分からない問題。民泊をされてるのは分かるんですけど、じゃあ管理者は誰なのか。民間企業なのか、個人様なのかが分からず、我々はどう

ここに言っているかわからないので、町会としても困っているということで、地域の方から声をいただいても、どこにそれを言ったらいいのかわからない問題もあってですね。なので、そういった管理者を明確にするには何かこう、1つの改善策としてできてもいいのかなと思ったりしますのと、地域にバングラデシュの方が住まわれているんですけど、その方はバングラデシュから日本に移住されるときのアテンドをされている方でして、不動産の賃貸を借りることができないそうなんです。あの方々は日本語がわからないので。そのときの通訳として一緒に同席してくださっているんですけども。ただそういった接点もやっぱりハードルが高そうに感じていますので、公共サービスの何かは分かりませんが、そういった多国籍の方が困ったときにサポートに頼れる窓口があればいいなというのをすごく感じたりとかをしていますので、鶴橋や桃谷の近くにそういった窓口ができるとか、そういうのがあれば、この日本の文化を知っていただけるので、ちょっとはお互い気持ち良く住めるのかなとか。そういう海外の方々を受け入れる1つのフィルターがこの生野にはないのかなと感じていたりして、各国の方々が頑張っているぐらいですかね。なのであまりコミュニティとかネットワークでつながってない感がすごくありますので、それを集約するのが区役所なのか、行政なのか、または地域なのか分かりませんが、お互い住みやすくするためにそういった窓口があればいいなとちょっと感じた次第です。そうすればお互い、良いまちだなと感じていただけるんじゃないかなと1周目を聞いて感じました。以上です。

○島本委員

生野区の未来について、私たちができることは何かと、大きいんですけども。今私は子どもの見守り隊をしているんですが、生野未来学園ができて今年3年ほどになるんですけども、最初私らは西生野の地域だったんですけど、生野未来学園によって子どもがすごく増えてきているんです。前は1クラスしかなかったから、その子たちが1年生から6年生まで人間関係がほとんど変わらないような、友達関係が変わらなかったけれども、生野未来学園になって子ども数も多くなって、それぞれ子どもの関係も広がっていると思うんですよ。大人もですが、今すごく、子ども同士のつながりも希薄なんじゃないかなと思うんです。だからこの生野未来学園を通じてずっと子どもたちも成長していくのだけでも、私たちも、見守り隊だけではなくて、子どもに関心を持ちながら、子どもに声をかけていたらやっぱり覚えてくれてるみたいで、道で会っても挨拶してくれたりとか出てきたりするので、できる限り、子どもたちが健やかに育っていけるようなことに関わっていけたらいいかなと思ってるんですけども。それとお年寄りのほうも、今のところ私は、女性部のほうでテイクアウトとか、日曜日にお食事を作って買いに来ていただいたりとか、モーニング喫茶なんかして、百歳体操な

んかも来てもらっていますけれども、お年寄りも割と来て、つながりを求めはるというところでもあるので、それが広がっていったらと。今すごく災害が起こりやすくなってるし、どんどん大きくなってきてる。大阪は今のところ割と平和なんですけれども、いつまた起こるかわからない。昨日なんかもすごい雨が降ったりしましたでしょ。だから大阪も災害に関わってくると思うので、できるだけ防災の取組なんかにも、近所に声をかけて取り組んでいけたらなと思っているんですけども、なかなか難しいです。地道ですけども、少しずつそんなんでつながっていかないとはいかなと思っています。

○塚本委員

先ほど、山納委員が分断とか、外国人のお話が多く出たと思うんですけども、私は桃谷商店街にいてるんですが、最近ネパールの方がすごく多いんですよ。

「ももやん」もそうなんですけど。それこそ、あるかないか分からない南海トラフとか地震が起きたら、例えばガス栓を閉めなアカンっていう防災に関わってくることとかも、あまり知識として持たれてないんじゃないかとか。例えば飲食店だったら、害虫とかがあるでしょ。もともとそういう虫がいない国の方もたくさんいらっしゃるわけで。保健所とかの問題になってくるんですけど、防虫業者を入れるとか、そういう知識もあまり持ってない。さっきごみ出しのお話もありましたけれども、それって結局、行政とか区役所がというよりも本当に地域で仲良くなって、していくしかないと思う。今僕は万博のヒートアップで、桃谷商店街活性化みたいなことをやってるんですが、ニューカマーの方に注力して、コミュニケーションし、なるべく生野区に取り込んでいくと。先ほど話のあった、生野区の治安が悪いとかのイメージって多分すぐ良くならないと思うんですよ。何年もかかることだし。やっぱり生野区の魅力って、多文化でたくさん外国の方がいらっしゃる、それを受け入れる土壤があるということで、それを生野区の魅力として発信していったら、地域もあんまり内輪にならずに、外国の人とどんどん仲良くなってコミュニケーション取るっていうのが、生野区の活性化にもつながるし、防災とか未来につながるんじゃないかなと思って、とりあえずヒートアップで取り組んでおります。以上です。

○廣川委員

先ほどの須郷さんの話がすごく参考というか、大きな視点で見すぎてから話が飛んでしまっていた。正直言ったら万博と未来を考えるっていったところで、万博ってひとつの種まきのところを結びつけるっていうのは無理がある。先ほど中村委員がおっしゃっていた、人が集まってきて、そこで子どもが生まれて、何十年単位でまちが形成されていくと考えたときに重要なのは、万博っていう一過性のところで何かチャレンジする姿をまちとしてどう見せるかなのかなと思ったのと、スモールな単位のところでアブロードさんがハブになり、そこに須

郷さんっていう人材おった中で、学校がハブになり、人としての須郷さんがハブになってっていうのが、すごく理想形だなんて。スマートな地域、まちづくりになっているのかなと。学校でなくても、機能するところを増やしていけたらすごく理想形なのかなと思います。

あと倉本さんが言ってた民泊のところは、結構本職なんで。保健所だったりとか、家の前に民泊の認証の標識がかかってあるんですけど、やっぱり海外の人たち、中国の方だったりとかが投資目的で始めてしまっているところに課題がある。空き家対策のところで、ホテル業の敷居が下がってしまったところの課題感はあるのかなと思います。ただ、他方でいうと、投資じゃなくてロマンを求めてゲストハウスとかは、先ほどのアブロードさんの事例みたいな形で、ハブになる可能性はある事業なのかなと。そこに対して、最近いろいろと若い人たちにアプローチしているんですけども、ちょっとネジが外れた若者が少なくなっているような。情報過多のところで、お利口さんにまとまっている若者がすごく多いようなイメージ。自分が震災後学生だったんですけど、そのときの熱量をどこに行ったら味わえるんだろうっていう。自分も今、もう一回青春したいなと思って、いろいろ行っているような感じがあって。生野区のコンテンツを見える化して、空き家の余白を見せた中で、若い人たちがそこに対して生野区でチャレンジできるような環境を見せられるような状況を作ればすごくいいなと思って勝手に動いているんですけど、そういった若い子に対してなかなかたどり着かないなという現状ですね。

あとさっき、民泊をもし本当に作って、戦略として考えるんだったら、60 개국あるから、各国特化型の民泊があっても面白いかなと。ベトナムの人にアプローチしやすい、ベトナム特化型の民泊、ネパールの特化型のっていうので、交流の生まれるツールが何かないかなと考えたときには、すごく面白い取組になるのかなって考えていました。

最後に、1 拠点 1 拠点みたいな、場所とか飲食店もそうですし、点で捉えるんじゃなくて、抽象的なんですけど、生野区を面で捉えた中で発信できるような何かを作っていけないといけないなっていうのをふわっと思っている。大分ふわふわした話で恐縮です。コツコツ頑張ります。

○中村（寛）委員

お店も、海外の人たちも結構商店街でも借りてお店をされてたりするので、ハードルも低くなっているのかなっていう感覚ではいてたんですよ、普通にね。でも、そういうのを紹介してくれたりとか、きちんと教えてくれるところがちゃんとあればいいのにな、誰がするの、行政が、みたいな感じになっちゃうのかなと思うんですけども、どうなんでしょうかね。海外から来られてても、やっぱり借りやすくはなっているんですよ。

○廣川委員

ベトナムのリサイクルショップの人の話聞いたら、ハブになる人がいて、その人をあてにするような感じで、そこで完結してしまう。

○中村（寛）委員

バインミーのお店ができたりとかいろいろあるから、誰かそうやって斡旋したりとか紹介したりとか、そういう人がいくつかあるのかなぐらいの感覚ではいたんですけど、塚本さんみたいに、お近くの人にはきちんとガスの元栓のことを教えてあげたりとかっていうお付き合いも大事だし、林寺さんみたいに町会長さん自らが挨拶に行って、入ってくださいって必要性を訴えたり、そんな小さなことからコツコツが大事ですよ。でも、そういうのが町会単位で今までできてたはずの、ちょっとやって当たり前になってきた部分もあったのかもしれないし、置いていかれてるところもあるのかなとか、町会に入らない人が増えているとかっていうこともあったと思うんですけども、万博も来年あるので、盛り上がってくれて、せっかくするんだから成功になるように、生野区も何かちょっとでも関わって影響があったらいいなと思いつつ、まちの未来で考えたらやっぱり小さなことからコツコツとやし、継続できるようなことを考えて取り組んでいけたらいいなというふうに思うんです。

ちょっと話がずれるかもしれませんが、通勤に今里筋をずっと使っていたんですけど、車で北のほうからずっと今里、猪飼野橋、大池橋って通って家に帰っていたんです。コロナもあったし、通勤の車の通る道を変えたので、大池橋から家までぐらいのところしか今里筋は走っていなかったんですけど、久しぶりに今里筋をずっと北から降りてきたら、猪飼野橋越えたあたりから生野らしいよね、ここってなる。いろんな人から聞いていたとおり、確かに建物が低く、空がたくさん見えるんですよ。夜とかやったら真っ暗な空が見えて、それまではちょっと高い建物とかコンビニとかで明るいんですが、猪飼野橋越えたあたりから急に暗くなって、やたらとぼつんぼつんってある街灯だけが目立つ。これちょっとだんだん暗くなってよなっているいろいろ考えたら、前から思っていたんですけど、生野区は持ってはる単位が小さくて、引っ越されても1軒が変わるぐらい。お店も1軒か2軒が一緒になってお店が変わるぐらいの小さな単位ではないから、大きな建物ってないじゃないですか。今里筋ずっと来ると、暗くて空がよく見えるんですよ。マンションとかがあって上のほうに明かりがついてるのが見えてたところから、急に暗くなる。街灯は確かにポツンポツンってあるんですけども、ここをもうちょっと明るくなるようなことってできへんかなとか。急に高い10階建てのマンション建てろって言ったって無理ですから、何か方法ないかなって思ったときに、私が子どもの頃は夕方家に帰ったら門灯をつけて、朝は新聞を取りに行ったら門灯を消すっていうのが子どもの仕事だったん

ですけど、生野に来て、家の路地とかちょっと中入ると電気みんな消してはるんですよ。町会で管理してある街灯はちょろちょろあるんですけど、どうも中に入ってくると暗い。2階3階ってあるんですけど、みんなカーテンとかブラインド閉めてはったら外にもあんまり明かりも漏れないじゃないですか。やっぱりもうちょっとこう、全員がこの日は街灯をつける日とか決めて、生野区一斉パトロールとかしてはるときに、外に出ないでその日は街灯をつけとく日とかって、何か習慣でそういうふうにしたらみんな乗ってくれへんのかなとかってちらっと思うくらい、ちょっと暗さを感じたので、まちの大きな今里筋とかの明かりだけじゃなくて、家の前の通りだけでもちょっと明るくしていくとか。ちょっとお伺いしたら街灯が暗いところがあったら言ってもらったら、補助してもらえたりとかっていうこともあるとは聞いたんですけど、バス停から家までが暗い道ばかりやって思うよりは、安心して家まで帰れるなっていう、明かりがあるなっていう。それは空き家なんかに関係あるんじゃないかなと思うんですね。だから、そんな小さなことですけど、ちょっと窓からの明かりを外に漏らすとか、街灯をつけとこうとかっていうことを近所で話できたら、そういうことも明るいまちにつながるかなって。物質的なことかもしれませんが、そういう声かけたりとかっていうつながりも含めて、町会のあり方とかも含めてですけど、そんなことからみんなで取り組む。いろいろイベントはされてるのは分かるんですけど、みんなで取り組める何かって言ったらそういうことも面白いかなとは思って、それが継続、ちょっとずつでも参加してくれる人が増えて継続して行って、夜の帰り道心配のないまちとかってなっていったらいいんじゃないかなと思います。すみません、関係ないかな。

○山納委員

ありがとうございます。二巡ぐらいして、やっこの大阪・関西万博の開催が生野のまちづくりに繋がってきたなという感じがしますが。最後に中村さんにおっしゃっていただいた、みんなで取り組めるというキーワードがあったと思います。サービスを受けるお客さん、消費者みたいなことになってしまうと、いろんなイベントやってるなとなってしまうのでしょーけど、私たちが小さなことからコツコツと、みたいなことを取り組む中で、これは私たちの問題、私たちの生野区を何とかしようというのにつながっていく、そういうことができたらいいなと思いますし、それが2025年を超えて続いていくみたいなことが起こっていくといいなと思いました。

そろそろ時間なのですが、まだしゃべりたい方いますか。大丈夫ですか。

○塚本委員

今日言おうと思ってて、これを読んで思い出したことなんですけど、万博のことではないんですけど、まちの活性化で、子育て世代とか若い世代ということ

で、生野で例えば、子どもとか高齢者の集まりとかイベントとかは結構あるんですけど、若い人、例えば20代～40代までの人の男性の集まるところは一切ない。子育て世代、若い人が重要だと言いながら、一切取り組まれていないというのがちょっとバランスが悪いなと思って、そこのバランスをちょっと考えてみて、もうちょっとそういう人たちのための何かを考えていったらいいんじゃないかなというのを、今日言おうと思いながら言い忘れていたので最後言わせていただきました。ありがとうございます。

○廣川委員

山納委員、ありがとうございました。それでは続きまして、議題2、区政に関する意見交換会の開催についてということで、事務局から説明をお願いします。

○武田企画総務課長代理

前のスクリーンのほうをご覧くださいませでしょうか。区政に関する意見交換会についてご説明させていただきます。生野区の取組については、区政会議でも委員の皆さまにご意見をいただいておりますが、大阪府立大阪わかば高校学校の生徒さんと意見交換会を開催させていただく予定としています。開催時期としましては、令和6年8月から11月を予定しています。開催趣旨としましては、若い世代の方々に区政への関心を持っていただくこと。また区役所としても、若い世代の方々の自由な発想や意見を聴取することは、施策・事業展開を検討する上でも重要であると考えており、貴重なご意見を伺える機会になると考えています。事務局からの説明は以上となります。

○廣川委員

ありがとうございました。ぜひ若い世代の方々の自由かつ柔軟な発想や意見を聞いていただいて、施策・事業に生かしていただければと思います。

それでは最後に、議事3、その他ということで、事務局から連絡事項がありましたらお願いします。

○森区政推進担当課長

事務局の森でございます。私のほうから、1点お知らせをさせていただきます。本日いただきましたご意見につきましては、7月23日に開催されます全体会で部会報告をいただきます。その上で、他の部会の皆さまにも共有をいただきたいというふうに考えております。部会報告の内容につきましては、事務局にてひとまず整理をさせていただきますして、本日進行を務めていただきました山納委員と調整させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。私のほうからは以上です。

○廣川委員

それでは、本日の会議を踏まえまして、筋原区長市長から一言お願いします。

○筋原区長

皆さん、長時間に渡り、貴重なご意見をたくさんいただきまして本当にありがとうございます。いただいた意見で、ちょっといくつかご説明をさせていただきたいと思います。1つは、外国人住民が増えていくことの課題についてご意見いただきました。今の状況を申し上げますと、生野区60か国と言ったんですけど、先般調べたら79か国に増えておりまして、5人に1人が外国人の方のまち。ただこれは帰化した方も含めるともっと多いです。都市部では日本で一番外国人比率が多いまちです。昨年くらいからコロナが明けまして、一人で働いておられた外国人の方が今どんどんご家族を呼び寄せておられるので、どんどん増えてきております。幼児から高校生まで日本語を話せないというお子さんがどんどん増え、またご家庭のうちで誰も日本語が話せないという外国人の方だけのご家庭も今増えつつあってですね、一方で長年ここにお住いの、韓国・朝鮮ルーツの方が長年お住まいの方が多くはすけれども、そういう方々ではご高齢になられて、ご自分で在留手続きができなくなってきたりとか、そうすると銀行止まっちゃうので、介護施設の支払いができなくなったりですね、非常に大きな問題が急速に起こりつつあって、これは従来の行政手法では解決できないという状態になっていると私は思っています。この状況をなんとかするために、まず外国人の急増している状況の正確な把握に本腰を入れた本格調査と分析と、その対応策を作るという調査、分析、検討業務委託を今年度区役所で予算を付けてやります。先般、いくのパークにあるNPO法人の多文化ふらっとが事業者さんに決まりました。今年度本格調査をしていくんですけれども、これはもう多分答えとしては、行政だけでも、たくさんの支援機関が生野区にはありますが、支援機関だけでも、また地域だけでも無理やと思うんですね。まち総がかりでこれに対応する新しいシステムを作らないと無理だと思っています。それが財源でいうと基金を組むとか、そういうことも含めて考えていかないといけなくて。でもこれはこれから人口が減っていく日本では、どうしても外国の方とともに暮らして、ともに働くというのか不可欠になってくるので、これから日本が直面していく課題そのものでもありますので、日本で一番外国人比率が高い都市である生野区がその解決のモデル都市とならざるを得ないと思っていますので、自分の任期中にはモデルとなるシステムを構築しなければならないと思っています。これが1つです。そのときにはやっぱりいろいろな状況が発生し、日本語が話せない外国人の子どもたちが増えてきます。それでもそういう子どもたちにもしっかりと学歴も仕事も得られるようにしていかないと、やっぱり治安の問題というのはイコール収入の問題がほとんどですので、世界の移民問題を見ても、治安の問題は収入が増えてくるとほぼほぼ解決したりするんですよね。今、生野区にある三栄金属という金属加工の会社さんなんかは、社員さんのうち半分がベトナムの方で、日本人もベトナムの方も同じ給料をもらい、工場長もベトナムの方

で、ベトナムの方と結婚し、家も買ってですね、もちろん税金も払って、小学生の子どもさんがいて、地域で生活しておられます。こういう形が普通にできる状況でないといけないと思っていて、そういうことを考えると、やっぱりまちの様々な立場の人や団体がつながるネットワークが大事だなと思っています。

私はこの「EXPO いくのヒートアッププロジェクト」というのは、もちろん万博の盛り上げもあるんですけども、これを契機にして、いろいろなネットワークを作っていくことが大事だと思っています。私も区長をやって15年目で、その間、空き家のリノベーションであるとか、水辺の活用プロジェクトとか、いろいろとプロジェクトをさせていただいたんですけど、プロジェクトの成功する要件というのは、結局は誰とどのタイミングでやるかに尽きると思うんですね。でするので、まさにインターナショナルスクールのアブロードがハブになって、須郷さんがハブでおられてという、そういうキーパーソンをつないでいくというのがすごく大事だと思っていて、例えば、この生野区の魅力的なお店のキーパーソンをつないでいく。今、蒲生四丁目（がもよん）が非常に賑わっていますけれども、この蒲生四丁目というのは、和田欣也さんという方が一人で30数店舗をプロデュースして、作り上げています。素晴らしいのはその30数店舗が、業績不振で撤退した店がゼロなんですよね。これは何をしてるかという、店長会議というのを毎週やって、30数店舗かがすごく仲良いんですよ。何が起こるかというたら、お客さんのシャッフルが起こっているんですよ。30数店舗をお客さんがずっと回っているわけです。それで収益を確保して。それだけでもないんですけどね。他にもいろいろな手法でやられてるんですけど、これが大きくて。魅力的なお店の店主さんが勧める店なので、お客さんは行きはるわけですよ。今まで週に1回お気に入りのお店に行って、後の2回をチェーン店に行ってたのが、例えば、生野区の方は週の2回をだいたい天王寺に行きはることが多いんですね、それを区内のお店に行ってもらえると。この「EXPO ヒートアッププロジェクト」で、ものづくりの企業さんもたくさん入ってもらい、一緒に飲食店の方ともやってもらったので、この春からもいろいろな場所でのイベントで、ものづくりの企業さんと飲食店の皆さんと地域の方が一緒になってイベントをやるということも広がっていております。そうすると、ものづくりの企業さんもお店に行きはるわけですよ。そんな形で、しっかりとまちとしてともに稼いでいけるようになるという条件づくり。こういうふうに小さな単位でキーパーソンがつながっていくというのも大事なんですけど、一方で、これは大正区長の時の経験でいうと、やっぱり小さい動きを積み重ねていくのは非常に大事で、やっぱり自分の実感として、行政だけの勝手な思いだけで施策を作ってもなかなかまちが変わることに至らなくて。やっぱり僕はご縁のある人の思いを大切に、その思いに沿った小さなチャレンジをいくつも重ねていって、そうするとそのチャレ

ンジの重なりが波のように1つの大きなうねりになっていって、まちが変わっていくというのが実感なんですね。大正区の場合はタグボート大正という河川敷のところの施設ができてから大正区がブレイクして、去年も賃貸情報誌の調査では大阪で賃貸で住みたいまち上位になっているんですけども。そういう動きでいうと、小さなチャレンジの積み重ね、それからもう1つは大きな外から人が呼べる仕掛けも一方で必要やと思ってて。それは何かと言うと、やっぱりコアタウンは年間200万人来ているお客さんが来ますが、今インバウンドゼロなんですね。インバウンドゼロで今200万人来ているんですよ。ですので、これはマーケットですね、芦原橋のアップマーケットであるとか、大東市の大東ズンチャッチャ夜市とか、これは加藤寛之さんという、私懇意にさせてもらってる専門家がやっておられますけど、毎月定期マーケット、定期マルシェを同じ曜日にして、それを重ねていくと、出してる屋台にファンがつくわけですね。ファンがつくと、屋台をやっている方は期待値が上がって常設の店の開業につながっていくということがあるので、今いくのパークで万国夜市を定期的にやっています。今話してるのはこの回数を増やしていって、できるだけ定期的に近づけていって、これは例えば毎月ということになると、旅行代理店と組めるわけですね、そうするとインバウンドを呼び込むことができるので、もう一段上のレベルの集客ができる。ただそうすると、トイレや駐輪場の問題とか、ごみの問題とか、一方で安全と賑わいの両立ということでは、いろいろな行政機関とも連携して対処しているんですけども、その課題も乗り越えながらやっていかなければならない、というのが大きい方向性で、やっぱり廣川委員におっしゃっていただいた、そういう生野区の魅力を点でなくて、面で発信できればということであれば、やはり来年ぐらいからは、エリア別のビジョンを明確に打ち出していくということも必要だなと思った次第でございます。

たくさん貴重な意見をいただきまして、生野区が元気に盛り上がっていくように頑張ってもらいたいと思うので、どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

○廣川委員

ありがとうございました。区政会議は生野区の将来について区民同士が率直に情報交換し、意見を語り合える場所です。令和6年7月23日には全体会の開催が予定されておりますので、よろしくお願いします。それではこれにて、まちの未来部会を終了します。皆さまお疲れ様でした。